



「名目GDP1000兆円、 今世紀前半は視野の中！」

自民党政調会長代理 片山さつき

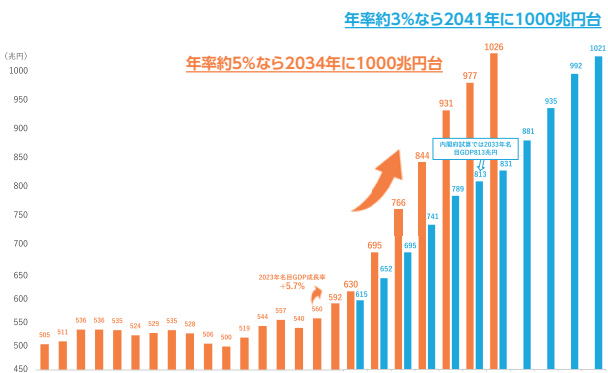
思い返せば、九二年に名目GDPは五百兆円台になったんですが、その後アベノミクスが一定の効果を持ち始めた二〇一七年に五百五十兆円を超えるまで何と二十五年掛かって、その中で新卒就職を探された、また創業された世代には本当に申し訳ないという思いでいっぱいでございます。

しかし、やっと二〇二三年の名目GDPが約六百兆円になりました、ここからこのペースで、今の名目成長率、約五%で伸ばしていくと、二〇三四年には日本の名目GDPは一千兆円に届くんです。

そして、内閣府の今年一月の中長期経済財政試算では名目成長を大体三%で二〇三三年にGDP八百十三兆、この矢印のところまで政府が置いております。その後三%を続けると、二〇四一年には一千兆を超えるわけで、二十一世紀前半のGDP名目一千兆は夢ではなく、リーチの範囲でございます。

若者は自信のある大人の背中を見て立ち上がると、そのように申し上げます。いろいろな状況が混迷していると言われる今こそ、この二十一世紀前半でのGDP一千兆円達成を掲げて、中長期的に持続的に成長し、給与も実質所得も上がり続ける日本をしっかりとコンスタントに宣言してはいかげでしょうか。

名目GDP推移と予測 (21世紀前半にGDP1000兆円台は可能!)



令和6年3月18日 予算委員会 自由民主党 片山さつき出典：内閣府HP国民経済計算(GDP統計)、内閣府「中長期の経済財政に関する試算」(令和6年1月経済財政諮問会議提出資料)を基に片山さつき事務所が作成資料①(パネル)

内閣総理大臣 岸田文雄
中長期の展望を見据えて、少子高齢化、人口減少を克服し、国民の豊かさと幸せを実感できる経済社

会、これを構築していく、こうした方向性が重要であると考えています。そのために、生産性の向上、労働参加の拡大、出生率の向上等に構造的に対応していく必要があります。

先日、二月二十九日ですが、諮問会議においても、そうした対応を実現すれば成長率が持続的にプラスになる長期的な姿、これが示されました。こうした中長期的な展望を見据えながら、必要となる今後三年程度の政策パッケージを骨太方針に盛り込んでいきたいと思っております。

こうした努力を続けていけば、委員御提案の二十一世紀前半のGDP、名目GDP一千兆円という目標、これも努力を続けていけば視野に入ってくるものと考えております。

マイナス金利解除後も 緩和的状況を維持!

自民党政調会長代理 片山さつき

日銀のマイナス金利解除(中略) まだまだ物価高やその他の状況がまだら模様なんです。

例えば、やはりまだコロナゼロゼロ融資の出口では事業再生ローンは金利が跳ね上がったら困りますし、住宅ローン、庶民のためにも跳ね上げるわけにはいかない、日本銀行には、総裁が日頃おっしゃっているように継続的な緩和的な状況を維持していただかないと困ると申し上げたいと思っております。

「燃料油の激変緩和措置、 当面延長!」

自民党政調会長代理 片山さつき

自民党の全体の政調会議でも各県から出たんですけれども、物価高対策はやはりまだ要るだろうと。その中でも具体的なものは、燃料、油でございます。



▲原油価格高騰・トリガー条項に関する3党実務者協議

このいわゆる激変緩和事業補助金が、応出口が来るんですけれども、ガソリンスタンドや現場からは、人が手薄でかつ行楽でガソリン需要が跳ね上がる連休中の制度変更だけはやめてほしいという強い悲鳴が上がっております。そこで、連休はこのまま越してですね、その後にについても(中略)これを急になくすという選択は恐らくなく、当分の間何らかの措置を続けなければならぬと思っておりますが、岸田総理の御方針をお聞かせ願いたいと思っております。

内閣総理大臣 岸田文雄
御指摘の燃料油価格の激変緩和措置ですが、(中略)お

尋ねの出口戦略を考えていく上でも、国民生活や経済活動への影響を考慮して検討していくこと、これは当然重要なことでもあります。移動手段として車が必要な地方や物流などに与える影響も含めて考慮する必要があります。また、委員御指摘のように、ガソリンの流通の現場に混乱を与えないように、これも重要な観点であります。

「エネルギーと通信の自立を! ペロプスカイト・核融合・ 宇宙開発の国内生産戦略」

自民党政調会長代理 片山さつき

軽くて曲がる次世代太陽電池、そして核融合、さらに宇宙産業、二〇四〇年には規模的に百五十兆円になるという試算もあります。半導体でさえ九十兆円です。この三つについて、日本として絶対に負けないぞと、絶対に生き残るぞというこの国内生産戦略について総理の御見解をお聞かせいただければと思います。

内閣総理大臣 岸田文雄

国際情勢等の変化によって世界中で安全保障の裾野が経済分野へ急速に拡大しています。その中で、我が国としても経済安全保障の取組を抜本的に強化していくこと、これが急務であると認識をしております。

御指摘の半導体、ペロプスカイト電池、核融合、宇宙開発技術といった先端分野において、我が国の技術的な優位性を確保し、その安定供給を確保する、こうしたために政府を挙げて取組を進めていかなければと考えています。

例えば、宇宙分野では、宇宙技術戦略をこの三月末に策定することとしています。その中で、必要な宇宙活動を自前でを行うことができる能力を保持するため、サプライチェーンの自律性の確保等に資する技術開発を推進することを明確に位置付ける、こうした方針であります。

経済安全保障の観点から、重要な次世代を担う産業について、引き続き、各種予算等による支援も有効に活用しつつ、国内サプライチェーン構築に万全を期してまいりたいと考えています。

「資源循環 (サーキュラーエコノミー)」

自民党政調会長代理 片山さつき

GDPの大きな伸びが期待できる分野として資源循環分野が挙げられると思っております。これはGXでもありDXでもあるんですけれども、サーキュラーエコノミーにつきまして、今回、環境省から法律が出てきているわけでございますが、先日、サントリーさんから、ペットボトルの一〇〇%リサイクルのプランを聞きました。清涼飲料の世界は日本にとって最先端となって進める分野になっておりますので大きな期待と、それから継続的な戦略が必要かと考えております。

「物流、旅客2024問題」

自民党政調会長代理 片山さつき

四月一日から始まる二〇二四年問題であります。特に物流、旅客もあるんですが、私どもも参議院の政審で三月の下旬に準備状況を恐る恐る伺ったんです。やはり、荷主の対応が余りにも分かれると、ちゃんとやってくださるところと、これ、白ナンバーでやる気なの?というようなところ。結局は、この業界自身が五段階、六段階の多重下請になつて、寄せるんじゃないの。

また、日本においては貸切りバスツアーは重要で、修学旅行もインバウンドも夕方から夜に入ってきて、運転手さんはその方をホテルに届けるだけで、翌日朝からがすし詰め日程というのが多いんです。これをこなそうとすると、九時間インターバルつきついでですね。今までは八時間だったんです。

やはり最初にはある程度現実的な対応をしながら御指導もいただかないと、思わぬところで崖から落ちるような物流ぶっつんどすとか、あるいは白ナンバーや多重下請の下の方に押しやられている方々による押し込まれた事故がないようにもしくなくてはいいけれども、ここには官民連携も必要です。政府の閣僚会議もありますので、是非慎重を期していただきたいと思います。現場をお預かりでいらっしゃる武見厚生労働大臣に最後にお伺いをいたします。

厚生労働大臣 武見敏二

委員御指摘のとおり、この四月から適用される時間外労働の上限規制、運送事業者が円滑に対応できるように丁寧に取り組む必要があるという認識を持っております。

労働基準監督署におきまして、運送事業者が違法、違反が認められた場合、事業所における労働時間の動向などの事情を十分聞いた上で、その是正に向けて、法令遵守のための方法等について丁寧に助言、指導することにより改善を図るとい、そういう基本姿勢になります。

円滑な施行に向けてこうした労働基準監督署における対応徹底させるよう、しっかりと取り組んでまいります。

自民党政調会長代理 片山さつき

この長らく取り組んできた問題なんですけれども、やはりトラックGメン、下請Gメン等の努力も新たに始まったところですし、それから、効率化については今までのない荷主の努力をしっかりと要求する法律をこの国会にも出させていたいておりますが、成立し、施行され、浸透するまでには時間が掛かりますので、しっかりと、政府・与党だけではなく、もう本当に全体として国中で支えていただくということを私どもも心に留め、また政府側にもお願いを申し上げます。質問を終わりたいと思っております。